

## ツルハホールディングス(3391)



### － 経費が計画を上回って推移するも利益は計画線で着地 －

ツルハホールディングスが13日に発表した2018年5月期の第3四半期（2017年5月16日-2018年2月15日）決算は売上高が前期比12.4%増の4881億円、営業利益が同13.5%増の313億円と二桁の増収増益となりました。しかし、昨年9月に買収した杏林堂グループをこの第3四半期より連結対象としたため、その影響を除いて前年同期の数字と比較すると売上高は6.8%増、営業利益は10.9%増となります。

第3四半期までの9カ月累計では杏林堂グループ連結分を除いても二桁の営業増益を確保しましたが、これを3カ月ごとにみると期を追うごとに利益の伸びが鈍化していることが分かります。第1四半期（2017年5月16日-8月15日）に前年同期比で15.6%の伸びだった営業利益は、第2四半期（2017年8月16日-11月15日）に10.9%増に、そしてこの第3四半期（2017年11月16日-2018年2月15日）には6.3%増と一桁の伸びに止まっています。

これは経費増が計画を上回っているためです。早めの出店により新店の営業月数が計画を46カ月上回ったほか、水道光熱費や人件費なども計画を上回ったようです。しかし、第3四半期の既存店売上高が前年同期比3.5%増と第1四半期（2.1%増）と第2四半期（2.9%増）を上回って推移するなどトップラインが引き続き堅調であることに加え、粗利益率の改善（杏林堂グループの影響を除く）もあり第3四半期までの営業利益は会社計画の水準を確保したようです。

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会